令和３年度　横浜市立四季の森小学校　学校だより

このまちに生き、共に輝く子

ねばり強く取り組む子　思いやりのある子　命を大切にする子　地域に愛着をもつ子　社会への視野を広げる子

四季の森

7月号

http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/

発表することの大切さ

副校長　梅田　佳美

６月２３日に旭区の国際平和スピーチコンテストが予定されていました。残念ながらまん延防止等重点措置の延長に伴い当日は、人前での発表から書類審査に変更になってしまいました。しかし、このスピーチに向け６年生はSDGｓについて学びました。持続可能な社会という視点で世界の様々な問題を知り、自分にできることは何かということを考え、全員がスピーチの原稿作りに取り組みました。

昨年はコロナ禍で人前での発表がなかなか難しい状況が続いていました。国際平和スピーチコンテストも行われませんでした。今年は、開催されることが計画されました。学校代表を決めるために５月３１日に校内での選考会を体育館で行いました。クラス内選考を経て各クラス２名が推薦されてきていました。

代表の４人はとても緊張してこの日を迎えたことが想像できました。当日は緊張感も伝わってきました。しかし４人の発表はどの子も堂々としていて聞いている人に自分の言葉でしっかりと伝えようと話しているのがわかりました。昨年は体育館など広い場所で大勢の人に向かって話をする機会もなく、去年の６年生の発表を聞く機会もない中での今回の選考会でしたが、とても立派な発表でした。今回のスピーチコンテストの選考会はとても有意義なものでした。

発表するということに向かって、学習を組み立て発表できるように内容を高め自信をもって当日に臨む。緊張しながらも終わったときに達成感を感じる。この一連の過程で学ぶことがたくさんあります。今回、多くの人に向かって直接発表することの大切さを改めて感じた取組でした。そして代表の４人にとってもとても良い経験になったと思います。さらに聞いていた６年生をはじめ下級生の子どもたちにとっても、刺激となる良い経験だったことでしょう。海のゴミ、エネルギー、食料難や貧困などをテーマにしたスピーチでした。自分たちも身近な生活の中で電気をこまめに消したりマイバックを持ったり、ご飯を残さず食べようなど自分ができることを実践したいと感想を書いていました。

学校はこれからも新型コロナウイルス感染防止に努めながらの教育活動が続き、まだまだ制約が多くあります。しかし、学校は集団で学ぶ場です。この状況の中で、できる限りの感染防止の対策を行いながらも、子どもたちが輝ける場面をたくさんつくっていけるようにしたいと思います。ご理解ご協力よろしくお願いします。